



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	編集後記
Author(s)	逸見, 勝亮
Citation	北海道大学大学文書館年報, 3, [207]-[207]
Issue Date	2008-03-31
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/43760">https://hdl.handle.net/2115/43760</a>
Type	other
File Information	3_207.pdf



〔編集後記〕

◇副館長井上勝生先生と運営委員櫻井恒太郎先生は、2008年3月末をもって定年退職される。大学文書館発足当初から運営に参画されたお二人の存在は、心強かったし、「共にあった」と強く思う。ありふれた言葉しか浮かばないのがもどかしい。

◇2007年1月～12月、来訪者は382人であった。開館日は年間245日だから、平均すれば1日に1.5人が来訪したこととなる。毎日のように1ないし2人が資料閲覧・調査依頼・資料に関する相談等のために来訪した。

◇この間に学内の各部局・個人・団体、あるいは学外の北大関係者から、寄贈・移管された資料は膨大である。収蔵資料の点では大学文書館は既にその体をなした。『北大時報』（北大HP）には資料受け入れ記事が2007年1・2・3・4・7・8・10・11・12月号、2008年1月号に載っている。また、2007年3・6月号には大学文書館主催第1回・第2回北海道大学史研究会の記事が載っている。

◇井上論文は札幌農学校の前身である開拓使仮学校の、戸田論文は開拓使の勸業事業の一端を論じた。山本論文は、北海道帝国大学における女性入学の重要な契機とされていた、東京女子高等師範学校修学旅行生を前にして行った佐藤昌介の挨拶と、彼が「正規学生」を念頭においていたことを、初めて明らかにした。加藤セチの息吹も鮮明に蘇った。

◇近藤論文は、全学教育科目「北海道大学の歴史」の報告であり、吉國論文はそれを受講した学生のレポートのなかから選定した。

◇敗戦前後の帝国大学教授の日常を活写した「中島九郎日記」翻刻は完結した。越山澄子氏には御礼の言葉もない。

◇仙台学寮資料紹介は、学生生活とそれを支えたひとびとの営為を共有する重要な契機となるはずである。

◇佐藤昌介「米国通信」（『大東日報』）覆刻・「解題」にも注目して欲しい。

◇この小さな大学文書館の多彩な活動を支えているのは、井上・山本両館員であり、ふたりを介して日々拡がりをみせている人々とのつながりである。

（逸見 勝亮）

---

### 北海道大学大学文書館年報 第3号

---

2008年3月31日発行

2009年3月31日第2版発行

編集・発行 北海道大学大学文書館

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

電話 011-706-2395（FAX 兼）

印刷 岩橋印刷株式会社